

厚生文教委員会報告書

平成28年9月23日

備前市議会議長 鵜川晃匠 殿

委員長 掛谷 繁

平成28年9月23日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

○議案第112号 吉永地域幼保一体型施設整備工事の請負契約の変更についてに対する附帯決議

<報告事項>

- 学力向上実践研究事業について（教育総務課）
- びぜん学校づくりサロンについて（小中一貫教育推進課）
- 図書館協議会について（生涯学習課）

<所管事務調査>

- 図書館等の耐震化について
- 電子書籍の利活用について
- フューチャースクールの整備状況について
- 学校における備前焼食器の利用について
- 中学校における部活動について
- 東鶴山小学校のトイレ整備について
- 小中一貫教育について

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
所管事務調査	8
議案第112号附帯決議	15
閉会	15

厚生文教委員会記録

招集日時	平成28年9月23日(金)	予算決算審査委員会 厚生文教分科会閉会后		
開議・閉議	午前11時18分	開会	～	午後0時25分 閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第6回定例会)の開催		
出席委員	委員長	掛谷 繁	副委員長	山本 成
	委員	橋本逸夫		田口健作
		川崎輝通		立川 茂
		西上徳一		星野和也
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	鵜川晃匠		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	教育長	杉浦俊太郎	教育部長	谷本隆二
	教育総務課長	芳田 猛	小中一貫教育推進課長	川口貴大
	学校教育課長	磯本宏幸	生涯学習課長	高橋清隆
傍聴者	議員	尾川直行	石原和人	
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前11時18分 開会

○掛谷委員長 ただいまの出席は全員です。定足数に達していますので、これより厚生文教委員会を開会します。

***** 報告事項 *****

報告事項をお受けします。

○芳田教育総務課長 学力向上実践研究事業について、現時点での状況について御報告させていただきます。

お手元に配付のA3、1枚の資料をごらんいただきたいと思います。

まず、この事業は、一番上の1、小学校4年生から中学校2年生を対象とした事業と、2、中学3年生を対象とした受験対策事業を実施しています。

(1) デジタルドリル教材の開発について、これはインターネット環境がなくても動作するオフライン版教材と、これを家庭で使用した場合に学習状況が学校のネットワークに接続した時点で学校と共有できるシステムを開発するものです。導入開発に向けた実施状況は、資料の表に記載のとおりですので、御確認いただきたいと思います。

次に、(2) 動画教材の開発について、2回に分けて50動画を製作する予定になっています。初回は、基礎、応用と積み上げていく教科である数学を製作し10月にインストールする予定で進めています。2回目は、学校と協議を行いながらつまづきやすい単元を中心に算数等製作する予定となっています。

次に、2番目の中学3年生の対象事業について、これは(1) ベネッセの受験対策教材の提供をしており、状況については生徒の希望高校に合ったコース選択を可能にするなど資料のとおり実施していますので御確認ください。

(2) 受験対策など勉強方法に不安な生徒のためにサスタびぜんを開講しており、ベネッセの教材を主に使用しながら実施しているところです。この中に、学習サポーターとして、ベネッセ、グロップが、岡山大学の笠井准教授の御協力のもと、岡山大学の生徒を中心に集めていただいています。このサポーターの皆様は、ベネッセ、グロップが研修を行い、サスタ開催後の振り返りや改善を行いながら、受講生の生徒自身が家庭で受験勉強ができる習慣や勉強方法、また個々のわからない単元、教科などを総合的に指導していただきながら3月まで実施していく予定となっています。サスタの名称、実施時期、参加状況については、お手元の資料でお示しているもので、御確認いただきたいと思います。

○川口小中一貫教育推進課長 びぜん学校づくりサロンについて御報告します。

資料1枚物を御用意しています。

びぜん学校づくりサロンですが、小中一貫教育の進め方などについて学校に子供を通わせる保護者を含む地域住民が意見交換を行うものということで、今年度中学校区ごとに開催をしてまいりました。なお、出された意見については、教育委員会が施策を検討する際に参考とさせていただきます。

だくという位置づけで進めてまいりました。参加者数については、この一覧にまとめたとおり、合計延べで132名の方に御参加いただくことができました。また、成果と課題ですが、3点まとめています。成果としては、学校づくりに関する意見の収集ができました。参加者の方からだけではありますが、学校づくりに関する意見の収集ができました。また2点目として、保護者を含む地域住民の学校教育に対する理解と協力の態度を深めることができたと考えています。それから、課題ですが、地域の要望に応じて説明や質疑応答を中心に行う場をさらに設けていくことも必要かと考えています。アンケート結果によれば、もう少し説明が欲しかったとか質疑を、もうちょっと知りたいというような声もありましたので、そういった場を設けることも必要かと考えています。

○高橋生涯学習課長 平成28年9月7日に第1回の備前市立図書館協議会を開催しました。本年度からの新たな取り組みとして、協議会委員4名を公募の形で募集をさせていただき、委員を委嘱しました。今後の活動としては、他団体の調査研究などに取り組み、また備前市の図書館のあり方について広く市民の皆さんの意見をお伺いするために、ワークショップなどを開催し、その御意見を盛り込む形で備前市図書館基本構想を策定してまいりたいと思っています。構想が取りまとめれば、公表してまいりたいと考えています。

○掛谷委員長 今報告事項が3点ございました。あと所管事務もあるので、簡潔にどうぞ。

○田口委員 学力向上実践研究事業について。

オフラインでも使えるようにするドリルをインストールするとか、10月からタブレットに動画教材をインストールするとあったが、タブレットのハードディスクの容量というのは大丈夫なのか。

○芳田教育総務課長 ベネッセにも確認していただいて大丈夫というお伺いしています。

○田口委員 そうするときの答弁というのは、容量が今何ギガあり、インストールする容量が幾らで、これだけ残るからまだ大丈夫という、具体的なやはり答弁ができるようにならないと、私は務まらないと思う。それだったら、もう誰でもしゃべれる。わからないか。

○芳田教育総務課長 はい。残りが、今タブレットの中に何ギガ残っているかというのは把握できていません。

○掛谷委員長 本体自体もわからないのか。

〔「あとにしてもらわないか。時間がないから」と田口委員発言する〕

〔「後で」と芳田教育総務課長発言する〕

○田口委員 右のページのサタスタびぜんの参加状況を見ると、例えば伊里中学校は1人です。もう完全にこれを無視されていると。合計3回で3人行かれているが、同じ人がいるかもわからないが、大した人数ではないです。それだけ、余り意味がないように。

○芳田教育総務課長 人数のところ、意味があるかないませんが、うちとしては、やはり塾も行

けていない家庭で、なかなかそういった教材もない方が、ぜひそういった勉強のわからないところを含めて参加していただきたいという形です。当然先ほど委員のおっしゃられた伊里については、夏に地区の寺子屋といますか、そういったのを開催しているところにも参加しているということで、ちょっとかぶったところもあるかと思いますが、今後もこういった開催をしながら生徒数はふえてくるのではないかというふうには考えています。

○田口委員 びぜん学校づくりサロンについて。

教職員のところで、吉永中学校、教職員ゼロですね。どういうことですか。

○川口小中一貫教育推進課長 まず、教職員の参加については、こちらから義務的に求めているものではなく、自主的に参加をいただいた結果ということになるが、吉永の場合は、ここには参加はしていませんが、傍聴に訪れていたところです。また、びぜん学校づくりサロンの結果については、アイデア集という形でまとめ、これを学校に回覧することにより、その当日の雰囲気とかアイデアとか、そういったことは共有してまいりたいと考えています。

○田口委員 地域住民は何を対象に案内されてこれだけ集まったのか。

○川口小中一貫教育推進課長 対象としては、とにかく手広くまくということで、公民館とか区長会とか、その他学校からも知っている方に渡していただくとかということで、広くまいてまいりました。

○橋本委員 関連してお尋ねをするが、参加者数がこういうことだが、これは小中一貫教育推進課として、この人数、まずまずの成果とみているのか。それとも、少ないとみているのか。

○川口小中一貫教育推進課長 定員というか、原則30名程度ということで募集してまいりましたので、それが埋まる程度の数だったことは、いい数字であったろうというふうに思っています。

○橋本委員 我々は日生西小学区ですが、西小学区のほうは、地域住民が9人、保護者12ということですが、何かいきなりわけのわからない、一遍に小中一貫ということで、事前の予備知識も何にもないところへ、はい小中一貫とあって、住民が右往左往していた嫌いがあるわけです。もう少し、事前に周知期間を置くなど、こういうことで説明に上がりますよ。ぜひ皆さん聞きに来てください、あるいは意見を言ってくださいという格好で、少しこう周知する期間が短過ぎたという嫌いがあるが、どうでしょうか。

○川口小中一貫教育推進課長 周知期間については、基本的に一月はとるように努めてまいりました。さらに伝える範囲としてもなるべく手広くということで努めてまいりましたが、これでもまだ不十分であったならば、改善に努めなければとは思っています。また、やはり小中一貫教育そのものについてまだまだ御理解いただけていないと思いますし、また学校について意見を述べるというようなこと自体が、そんなに行われていることではないのかもしれない、そういった当たりをますます地域の方にもお伝えしていくことが必要かなと思っています。

○橋本委員 ぜひそのように。我々あちこちで小中一貫という格好で、視察もして、どういふも

のかが大体わかっているが、一般の父兄とか地域の住民は、何のことやらさっぱりわからないというようなのが実情なので、もう少し丁寧に周知をして、こういうことを市は計画しているが、皆さんの意見を聞かせてくださいという格好でしていないと、何かいきなり小中一貫とやられて、本当に困ったというような声も聞くので、ぜひひとつ改善をしていただけたらと思います。どうでしょうか。

○川口小中一貫教育推進課長 今後については、教育委員会として主催するびぜん学校づくりサロンという形以外に、例えば地域で行われている区長会とか自治協議会とか、そういったところに積極的に伺いをしてお話をしたいなというふうに思っています。そういったところに対して教育委員会から伺いますということの広報を努めていきたい。まずはそのように取り組んでいきたいと考えています。

○橋本委員 次の質問で、学力向上実践研究事業。

ことし3月15日の予算決算審査委員会の資料でいただいたこの事業の一覧表があるが、大体順当にこの区分どおりに進んでいると捉えていてよろしいでしょうか。

○芳田教育総務課長 当初の予算のとおり順当に進んでいます。

○橋本委員 そういう中で、ここで報告がある小学校の4年生から中学校2年生まで、あるいは中学校3年生を対象としたタブレットのドリル教材というふうに私受けとっているが、これが例の岡大とベネッセと共同で、3者共同で教材を開発するという事業と認識しておればいいのか。

○芳田教育総務課長 小学校4年から中学2年生のドリルはそういうことです。中学校3年生はドリルではないので、ベネッセの進研ゼミという教材を活用しながらやっています。

○橋本委員 ドリルをこしらえる必要がなくて、進研ゼミ、ベネッセが持っているものをそっくりそのまま使うということで、開発はしなくていいということか。

○芳田教育総務課長 中学3年生対象はそのとおりです。

○橋本委員 その中で、これにも中学校3年生向け教材費で1,642万5,360円、平成28年度の予算があるが、備前市内の中学校3年生に今の進研ゼミ、進研ゼミのそういうものをインストールする教材を使うのに、これだけお金が必要だということか。

○芳田教育総務課長 これは紙ベースで、紙の問題集とか参考書を提供しています。

○橋本委員 タブレットは使わないのか。

○芳田教育総務課長 中3は使いません。中3が使うのは、今のデジタルの、ドリル教材を、自分の持っているタブレットで振り返りで使うことはできますが、受験対策は進研ゼミの、紙の問題集とかを使用してやっています。

○橋本委員 よくわかりませんが、私は当然タブレットを使うのに、岡大やベネッセと備前市とが組んで、ないものは開発するあるものはそれをそのまま使わせてもらうということだが、結構な金額ですよ。これが毎年度、来年も再来年も、その次もずっとこの1,600万円台ぐらいを予定していると。これは、ペーパーでくるのか。それと他の市町村もベネッセと組んでそういう

ことをやっているところはあるのか。

○**芳田教育総務課長** 他の市町村では中学3年生の受験対策というのは聞いたことがないです。先ほど小学校4年生とか中学校2年生でモデル校をして、そういったタブレットを使った教材を入れながらというのは聞いたことがあります。

○**橋本委員** これは、もう既に平成28年度の予算だから、もう既にやっている。だから、進研ゼミのそういういろんな教材をもらってきて、どんどんどんどん中3の子がやっている。だから、来年の高校の進学するときには備前市は相当すばらしい成績が残るということで期待していてよろしいか。

○**芳田教育総務課長** 子供たちが本当に希望するところに入れるように、うちのほうも支援していきたいというふうに考えています。

○**星野委員** 学力向上の資料について確認をさせてください。

実施状況の日程の9月からのところに、各学校の判断で持ち帰りを段階的に実施中とあるが、伊里小、備前中、三石中でとあるが、伊里中ではないのか。

○**芳田教育総務課長** いえ、今実際に持ち帰っているのは伊里小、備前中、三石中と伺っています。今、持ち帰りに向けてどういった形で持ち帰らそうかというのは、各学校で今協議をさせていただいているところです。

○**星野委員** 赤ペン先生の提出状況で、8月号実績、備前中53通とあるが、何名の方が受講されてこの数字なのか。

○**芳田教育総務課長** 参加状況の中に生徒数がありますが、備前中は132名います。そのうち53通が8月末までに提出してきたという形です。

○**星野委員** ほかの中学校の数値というのは今わかりますか。

○**芳田教育総務課長** 実はほかの中学校は、来週の1週間で回収する予定になっているので、今数字は出ていません。

○**橋本委員** 先ほどの3月15日の委員会資料をもとにお尋ねをしますが、サタスタびぜん、これはどこに該当するのかわかるとして見たら、場事業運営費ですか。今、あんたら持ってないからわからないと思うが、どういう意味なのかとそのときに聞いたら、放課後学習のことだと説明を受けたが、これとサタスタびぜんは一致するのか。年間964万円ほど計上しています。

○**芳田教育総務課長** 場事業は、支援員、大学生とかの賃金ですね、そういったところの経費がそちらのほうへ計上されています。運営の部分で。教材とはまた別です。

○**橋本委員** ちょっとこの資料を見せますから。サタスタびぜんはこの中のどれに当たるのか。

○**芳田教育総務課長** 中3向けの教材は全生徒にお渡ししている予算はここへ計上されています。場事業運営費の中に、先ほど委員おっしゃられた放課後の大学生の賃金等をここから捻出しています。

〔「サタスタびぜんは」と橋本委員発言する〕

サタスタびぜんはこの場事業が。

〔「じゃあ、入るんじゃがな、ほんなら」と橋本委員発言する〕

教材は上のを使っています。

○橋本委員 九百六十何万円の中の、ほんの一部がサタスタびぜんであり、それ以外にまだ放課後学習というのはどんどんやっているということによろしいか。今、順調に事業は推移していると言われました。ほかの学年も。これサタスタびぜんといえば中3だけでしょう。それ以外の学年でも、今の放課後学習ということでどんどんやっていると理解していればいいのか。

○芳田教育総務課長 ほかの学年は、タブレットにそういった教材であり動画を入れて家に持って帰って学習するという形なので、放課後学習のほうではないです。中3だけが放課後学習です。

○橋本委員 そうじゃなしに、九百六十何万円を予算計上しているでしょう。その中の一部がこのサタスタびぜんだと。だけど、かなり多くの部分は、違う放課後学習でほかの学年でそれは順調に事業としてやられているのかということを知っている。

○芳田教育総務課長 場事業運営費のものは人件費がこのところへ計上されています。サタスタだけの人件費です。

○橋本委員 そしたら、九百六十何万円というのはサタスタびぜんだけか。

○芳田教育総務課長 いえ、おおむねもう、実際の派遣人数によっても変わってきますので、概算で上げています。

○橋本委員 目先の事業名をころころころころ変えたら、私たちわからなくなるわけです。サタスタびぜん、これはネーミングがサタスタびぜんということになった。ここに場事業なんたらかんとらと書いていたら、あ、これと一致するというのがわかるが、名前をころと変えただけでわけがわからないわけです。これから、もっとそういう説明をしてください。全部がサタスタびぜんですね。

○芳田教育総務課長 予算計上はそのようになっています。

○田口委員 中学3年生を対象とした進研ゼミの話ですが、3つのコースから選択してペーパーを配ると。生徒にすれば、まあ言えば押しつけの宿題だ。はっきり言えば。こんなもの要らないというような。これは、学校の成績と連動するのか。こんなもの要らない、したくないと言った場合は。

○芳田教育総務課長 これをしなかったら成績に影響するかということで、特にこれをしなないといけないというのはないです。成績には影響しないです。

○田口委員 橋本委員の1,600万円を単純に割れば、生徒1人に3万3,000円かかるわけです。それを、備前市教育委員会が、こう押しつけで、おまえらこれ使って頑張って勉強しろと。私に言わせれば押しつけ、正直。どのぐらいの回答率が、どのぐらいして返ってくるのか知らないが、その辺もよく見きわめてしないと。それと、みんなかしこくなって、岡山の5%いう

のは5%だからな。かしこくなった上の5%しか入れないわけ。その下はどこに行くのかということになるわけ。なあ、課長。岡山5校しかないよ。それも5%で入れるのが。よそより全部勝っても、しれている、入れる人数が。その辺もちゃんと考えてくれているのか。

○芳田教育総務課長 当然、岡山5校以外にも私立の難関高校とかもあるので、本当に今回は生徒の希望して行きたい学校へ入っていただくように支援したいというふうに考えています。

済いません、先ほどの容量の関係ですが、容量は64ギガバイトで、完璧ではないが、教材が入っていない状態で42ギガバイト入って、これで入れることが可能というふうに判断しています。

***** 所管事務調査 *****

○掛谷委員長 所管事務調査に入りたいと思います。

教育長も出席していただいていますので。どうぞどなたでも。

○川崎委員 図書館は所管でいいのか。

というのが、問題意識としては、今本庁舎も耐震化、総合支所についても古い建物が多いということで、どういう使い方をするか使い方の調査を今予算計上されているが、私日常的に次に市民が集まる公共施設は何かといえば、市民会館であり図書館だと。だから、もし地震災害、何かあると、その利用者が被害を受けるということで。備前市内の図書館の耐震化の現状はどうか、余り議論を聞いた覚えがないので、その現状について。

○高橋生涯学習課長 新基準の耐震化の基準を満たしていない施設、図書館については、備前の本館と吉永分館と聞いています。

○川崎委員 日生は、市民会館ですか。そんなに古くも新しくもないという感じで、あそこは耐震基準クリアしているのか。

○高橋生涯学習課長 新基準が昭和56年と聞いているので、それ以降の建築と聞いています。

○川崎委員 総合支所とのバランスだが、今の総合支所というのは、本当に合理化されているとか、日生でも五、六十人ぐらいいたのが、窓口には来ている市民は今10人いるかいないと。それよりも、市民会館というのは常時いろんな催しをしたり、図書館は常に市民及び子供たちも含めて利用客がいるということになれば、総合支所も大事だが、やはり文化の発信の場所である、拠点である図書館というか図書室というか、市民会館といった。市民会館は別でしたか、ちょっとよく所管がわからないが。やはり含めて、耐震化の問題というのは、備前焼ミュージアムも大切でしょうが、あれは言い方は失礼だけど、行くとしたら市外の方が多いかなど。それより、まず市民の命を守るという意味では、図書館のほうを最も優先してやるべきところではないかという問題意識を持っています。どっちもどっちとも言えるが、我々地元の人間としてはやはり市民をまず守ることが、そういう施設強化が必要だと思うので、その辺の耐震化なりの方向性というか、計画とか予定とか、どうなっているのか。

○杉浦教育長 私が着任して、これまで立ちおかれていた図書館といったことが、ようやく議会

でも俎上に上り、これは以前から議員が取り上げてられていましたが、ようやく備前でもちゃんと整備をしようという話になってきたわけですが、同時にやはり現存の施設を、それが具体化するまでの間にきちんと維持しなければいけないわけで。それについては、きちんとロードマップの中でも位置づけて整備をしていきたいというふうに考えています。

○川崎委員 合併して大きくなったのだから周辺の町に負けないように、新しい立派な図書館をつくっていただくのも結構ですが、それよりも私は現存の図書室なり図書館を、市民会館という中に大体含まれているので、そのほうがさきに耐震化なり工事をやったほうがいいと。今まで我慢してきた新図書館というのは、ある意味では我慢すればいいことで、新館になれば当然耐震化もできるわけだから。やはり今まで使いなれた場所をいかにやるか。

それと、教育長がよく言っている、何か地域に合った図書館か図書室というか、そういう個性、地域性を持った図書館というのは、やはり今既存の施設をフルに活用することだと思う。今後、私もこっちの所管になったので力を入れたいと思うが、総合支所も大事だが、やはり市民が最も日常的に利用しているのは市民会館であり図書館ではないかという問題意識がある。この耐震化のめどというか、急いでいただきたいということを要望したいと思います。教育長、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 具体的にスケジュールを策定します。それで、できるだけ早く議会にも御相談、御報告をしたいというふうに思っています。

○川崎委員 何年後ではなく、ことしじゅうか来年とか。その辺のめどはどうでしょうか。

○杉浦教育長 これに関しては、教育委員会単独で突っ走るわけにもいかず、予算全体のあんばいというか、そういった中で市長部局と協議をします。

○田口委員 図書館の話が出たので。電子書籍の読める、K o b oかな。何台あって、利用状況どうですか。

○高橋生涯学習課長 済みません、台数については、今手元に資料がございませんが、今ほとんど利用されていません。

○田口委員 もうぜひ、教育長。それを教訓にどんどん目新しいものを先走って買うとそういうことになるわけです。もう、市長に報告しましたか。

○高橋生涯学習課長 年間の利用者数は報告します。

○田口委員 いや、予算査定するときでも、市長、こうこうこういうこともあるわけですよ。あなたトップダウンで何ぼでもどんだん予算つけようとしているが、こういう事例もあるので、もっともっと慎重に考えてくださいと、そこまで言わないと意味ないだろ。

それと、私6月から8月いっぱい休憩している間にフューチャースクールはできたのか。

○芳田教育総務課長 以前ちょっと報告させていただいて、今2校がもう着手しており、今設計をつくっており、今度の入札にかけたいというふうに考えています。

○田口委員 どことどこですか。

○芳田教育総務課長 今吉永小学校と伊部小学校が入札しています。あと残りの中学校、小学校については、これから設計書を上げていきます。

○田口委員 今年度中に全部完成すると思ってよろしいか。

○芳田教育総務課長 今年度末までに完成するように発注してまいります。

○田口委員 備前焼の食器が片上小学校とか日生の給食センターにもあるが、使われているのか。

○芳田教育総務課長 片上小学校については、5、6年生でそれぞれ1回ずつ、日生共同調理場は昨年南小学校の閉校にあわせた給食メニューということで使っていた。28年度については、今は使っていません。そうした中で、今、日生中学校の調理実習へ配備して、調理をしたときにそういった食器でなじんでいただきたいというふうな形で協議は進めています。

○田口委員 現場からは、扱いにくいし、やめてほしいという声も聞きます。あれも要は市長の押しつけです。年に一遍や二遍使って、これで愛着が湧きますか。もうちょっとその辺も考えて。年に一遍使うのなら、どこかにしまっ、よく乾燥させて、置いておくほうがいいよ、課長。私そう思う。売るかな、もう。

○芳田教育総務課長 中学校の調理実習とかはかなりあったり、親子触れ合い料理教室もあるので、そういったところで回数をもっと使うような形でしていきたいというふうに今検討しています。

○橋本委員 中学校の部活の問題で、ある小学校の児童の父兄から相談がありました。その子は日生の西小に行っているが、日生中学校へ行っても、野球部が2人という状態で部活にならないと。多くの子が、クラブチームへ行ったり、野球に限らずサッカーもそうですが、そういうことになっていると。以前この話題をお話ししたら、近隣の中学校で統合して部活をやるような体制を、もう既にやっているのか、あるいはやる予定のか。

○磯本学校教育課長 少ない人数のところについては、ほかの中学校と合同でという形でやっています。

○橋本委員 例えば日生中の野球部は今現在何名いて、もうチームが編成できないから、例えば伊里中や三石や、例えば備前中と統合してチームをつくっているということをきちんと言えますか。

○磯本学校教育課長 申しわけありません。毎年変わっているのは変わっています。と申しますが、顧問間の話し合いで、統制しているようなところがございまして、教育委員会がかかわっていないので。

○橋本委員 教育委員会がかかわっていないといえば、ここで質問したら、あんた場違いだと叱られるかもわからないが、父兄にとっては、実に大きな問題で、我が子を日生中に進学させるか、あるいはもう、例えば岡山へ転出して、そういう学校へ通わせるか、もう選択が迫られているわけです。早く結論を出してくれと。でないと、もう引っ越しするぞというふうにおどされて

いるわけです、早くいえばね。

教育長、そういうものをやはり小学生の段階で一生懸命やっている子、野球とかサッカーとか、そういう者のために、例えば中学校へ進学したら、日生中であれば伊里中と三石中と3校で予定を、さきにアンケートとらないといけないが。そうしたら、これだけの者がいるので部活としてやれますと。練習に関しては、送迎も例えば学校が責任持ってやるとか、そういうきちっとした対応を示してやらないと、誰が考えても2人や3人で野球部なんかできっこないですから。そう考える父兄が出てくるのも当然のことです。そこら辺をより親切に指導してあげるといようなことはできないのか、小学校の段階で。

○杉浦教育長 主導権が学校側にあるというのは事実ですが、まだまだ教育委員会としてできることがあると思っています。顧問の問題もありますし、これからやはり教育委員会としても、きちんと部活にコミットしていくという姿勢、実行が求められているというふうに私は考えています。

○橋本委員 さっき課長が言われた部活の問題は、教育委員会の所管外になるのか。私は、もっと積極的に教育委員会が介入して、部員の頭数が集まらないところはこことこことこことが統合して、ここで練習しなさいと。ついては送迎をよろしく願いますという調整役を教育委員会がやらないと、放っていたら自発的にやるというようなことないが、どうでしょうか。

○磯本学校教育課長 所管外というのはちょっと語弊があるが、どの学校でどの部活動を設置するのかというのは学校が決めることではあります。校長が参加の希望者であるとか、あるいは指導できる者、教員であるとか、そういった者を見ながら設置しているような状況ですので、それについては相談にも乗れるし、助言もできますし、実際に相談したこともあるが、最終的には学校長が決められることです。

○橋本委員 それを、学校現場にぽんと任しておれば、新入生が入ってくる、部活の意向調査をする。例えば、野球部員がもう一人か2人だったと。さあ、どうすればということだったら、父兄は安心して子供を行かせようかという格好にならない。だから、今その子は小学校の6年生だが、中学校へ行っても部活で野球やりたいと。やりたいといっても2人や3人しかいないところに行ってもできないと。それなら、どこかへ行こうかということになるので、そんなことをしたらみすみすこの住民が少なくなるわけです。私は、そういうのは嫌なので、それを積極的に教育委員会が学校長に言って、こことこことこことは統合してここで練習してくださいというような調整役を積極的にやっていただけないかと言っているわけです。これは、教育長答弁してください。

○杉浦教育長 私の気持ちとしては、積極的にコミットしたいというふうに考えています。

○橋本委員 ぜひ、そこら辺を積極的にもう早くやって、そういう父兄にも日生の中学校へ進学させてくださいと。きっちり部活はこういうふうにしますからということで、安心感を与えてやるということが、私は大切なだと思ふ。ぜひともよろしく願います。どうでしょうか。

○杉浦教育長 教育委員会の中で、きちんと校長の判断も尊重しながら、きちんと調整をしてみたいです。

○西上委員 小学校のトイレのことでお聞きします。さきの7月から8月にかけて、久々井でインターハイがあり、そのときに東鶴山小学校では、駐車場に指定されていたが、そのときにトイレの予算化をされていたわけですが、それに合わせてつくっていただけたのかと思ったら、充てられていないということで。いろんな事業でもそうですが、やはり効果の出る時期、タイミングというものがあると思うが、その辺のことは考えられてはいないのか。協議されてはいないのか。

○芳田教育総務課長 高校総体との絡みは考えていませんでしたが、トイレについては夏休みに発注したいという中で、入札がおくれて、遅延になり、今発注しているという状況です。東鶴山小学校については、トイレ棟自体が老朽化しており、その設計の部分で若干時間がかかりますが、年度内には終わるように発注してまいります。

○西上委員 それより先に、やはりおもてなしの観点から、それは考えていないと言われたけど、おもてなしの観点と、おもてなし係があるわけだから、何でその辺と連携をされて、それに合わせてつくるように考えられなかったのか聞きたい。

○芳田教育総務課長 済みません。東鶴山小学校が使われるというのちょっと聞いていませんでした。連携の部分で本当に、今後横の連携も大切にしたいと考えます。

○西上委員 聞いていなかったというのでもうよろしいです。わかりました。

○田口委員 先ほどの橋本委員のお話で、日生中学校では野球部が2人と。ことしはどうやっているのか、実際。

○磯本学校教育課長 ことしは、伊里中、佐伯中その組み合わせが、毎年人数で変わるので、確実なことは言えないが、伊里中と佐伯中は入っていたと思うが、そこと合同でやっておられます。

○田口委員 すると、その日生中の子が何年生かわからないが、来年もどこが主になるかは別にして、そういうことで部活が組めるというふうに理解してよろしいか。

○磯本学校教育課長 実をいうと、日生中の校長それから教頭が、日生西、東に聞いて、それでどれぐらい入部希望者があるのか、希望者があれば、続けるかどうかということも協議してから設置をするかどうかを決めるので、当然就学の問題もかわりますから、指定校を決める前に、するかどうかを決めるとは思いますが、そういう流れになるかと思えます。

○田口委員 教育長、校長、教頭とよく相談してというが、今、例えば日生中に硬式テニスの好きな先生がきたら、もうすぐ硬式テニスの部ができるわけです。

だから、需要と供給ではないが、そういうバランスもあるわけですが。部活の部がなくても、石谷君みたいに全国で2番になる子もいるし。だから、どこでどういうふうにしてするかだけの話だと私は思う。でも、やはりしたい部がなければ、その子にとっては本当に一大事な話だから

ら、早急に対応して、早目に対応しないと。片やいろいろなお金をばらまいて、ぜひ備前市にきてください、幾らあげますとかとやりながら、そういうところがおろそかになって、抜けていくと、ささいなお金でね。やはり人目にど派手なパフォーマンスは好きですが、うちの市長も。やはりそういった見えにくいところで、やはり市民の皆さんが出ていくのを、そうじゃないんですよ、備前も頑張りよんじゃから、ぜひここで頑張ってくださいということをしていくのが行政だと思う。ぜひ教育長よろしくお願いします。

○杉浦教育長 しっかり取り組ませていただきます。

○星野委員 小中一貫校について、モデル校開校まであと残り約半年か。今後どのように進めていくのかスケジュールなどを教えてください。伊里中学校区。

○川口小中一貫教育推進課長 伊里中学校区で取り組んでいることについて、まずお答えします。

小中一貫教育校をあけるに当たり、3点要件を考えています。

目指す子供像を小・中学校で共有すること。また、9年一貫の指導計画を有するということ。それから、学習活動の工夫など、そういった取り組みがあることといったこと等を一つのメルクマールにして取り組んでいるところで、現在、その3つに分けて小・中学校で合同研修などを取り組みながら進めていただいているところです。

また、開校に当たり、来年4月、これで開校になりますということでひとつ対外的にお示しできるような場を設けたいということで、現在そのような、式典という形になるのかどうかわかりませんが、何らかそういった場を設けるということを現在検討しているところです。

開校までの準備としては以上です。

○星野委員 その式典になれば、まだどうなるかわからないが、地域とか保護者への周知はいつごろ行う予定か。

○川口小中一貫教育推進課長 伊里中学校区の保護者の方、地域の方にぜひ今後どうなるのかということを知っていただきたいということで、12月ごろなのか1月なのか時期はまだ未定ですが、一度そういった説明会をぜひ開催したいということで、こちらも検討しています。

○星野委員 この説明会というのは何回程度行うつもりか。もう一回きりですか。

○川口小中一貫教育推進課長 現在は1回を考えています。

○川崎委員 関連で、今開校という言葉を使ったが、サロンでは小中一貫教育ということだけで、校ということを使うと、伊里小学校と伊里中学校がなくなり、伊里学園か何か知らないが、全国的にはそういうふうな名前になり、小学校の校長がいなくなると、教頭がいなくなるということを情報として入っているので、開校という言葉は分離型は使わないほうが私いいと思う。誤解が生じますよ。校長が1人になる、教頭が1人になるというふうにしかとれません。開校ということになると。だから、分離で、指導要領も変わらない、教育長答弁で、小学校は小学校の指導要領、中学は中学の指導要領で、サロンでも連携を強めて9年の一貫教育をしていくと。それ

はそれで中身を充実していただけたらいいと思うが、4・3・2がいいのか、何がいいのかよく知りませんが。やはりその辺は分離型の小中一貫教育とは何か、もう少しわかりやすく誤解がないような形の簡単な資料、それとその説明会が1回ということでした。そうではなく、保護者には保護者、地域住民も子供か孫が心配だという地域住民の方にも、階層ごとというか、いろんな形でやはり初めてやるわけだから。戦後70年続いてきた6・3・3制というか、6・3制をそういうふうに変えていくということなら、やはりもっともっと綿密にそれぞれのところでいろんな質問、要望をしっかりと聞いていただいて、伊里小学校、中学校という学校を残すのであれば、開校という小中一貫校というような校をつけることは、私は誤解のもとなので避けていただくことがより中身を実行していく上では必要なことではないかという問題意識を持っている。どうですか、そこのところは。どういう形で統一していくつもりか。

○川口小中一貫教育推進課長 保護者の方や地域の方、学校関係者はもちろんですが、誤解のないように取り組んでいくことは一番重要というふうに考えています。御案内のとおり、伊里中学校区については、伊里小学校も伊里中学校も当然存続しますし、現行のその学校制度の形が変わるわけではないです。ですので、委員御指摘のように、開校という言葉があたかもその一つの、例えばその義務教育学校みたいなものができるというような誤解を生じかねないという御指摘は大変貴重な御指摘であろうと思ひまして、気をつけて、言葉の選び方をちょっと考えてまいりたいと思います。

なお、一つの中学校区としてより連携を深めた形で教育を進めるということで、その中学校区を称して何と称するかというところで、例えば伊里学園というような言い方をしますということを今後はしていくこともちょっと考えているところです。

いずれにしても、やはり実体に応じた正確な理解が伝わるような言葉遣いに留意していきたいというふうに思っています。

○田口委員 先ほど星野委員の、説明会は1回でという話があったが、備前中に次ぐその学区の広いあの中で、1回で終わりなのか。私は少なくともそれぞれの地域に行って説明するぐらいの気持ちは持ってほしい。もう本当に押しつけが好きだな。聞け、悟れ。

○川口小中一貫教育推進課長 教育委員会として場を設けるのは、今のところ1回かと考えていたが、先ほどの学校づくりサロンの話の中でも出てきましたが、やはり地域の方や保護者の方によく知っていただくことが重要で、自治協議会とか区長会であるとか、そういったところに御案内を差し上げて、そういう場をもし設けていただければ積極的に御説明に伺いたいというふうに思います。

○掛谷委員長 所管事務調査、もうよろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

説明員の方は退席願います。

休憩します。

午後0時18分 休憩

午後0時22分 再開

○掛谷委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

***** 議案第112号附帯決議 *****

先日審査をしました議案第112号に対する附帯決議についての御協議を願います。

お手元に案文が配付されています。これを一読していただき、問題がなければこれを本会議で決議案文としたい思います。

○橋本委員 この原文を作成した本人が言うのもちょっとおかしいが、前段の3行目、同月22日執行部は委員会、議会に何ら説明、報告等をする事なく、その後に、議会議決を経ずに、その執行をしたというような格好で、議会議決を経ずに、得ずにでもいいから、そういう文言を一つ追加していただけたら、より我々の気持ちというのが、議会に議決して予算を立ててからこのようなものは発注しなさいということになりますので。議会議決を経ずにとか得ずにとかという文言を入れていただけたらと思います。皆さんに諮ってください。

○掛谷委員長 今の橋本委員がおっしゃるとおりでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それを入れて、これを本会議で申し上げますのでよろしくお願います。

それから、委員会の視察の件ですが、一応11月ぐらいを予定しているが、決算の特別委員会があるので、11月中には行きたいとは思っています。12月になればもう議会になりますので。それと、どういうところに行くかということですが、お任せということですが、包括ケアシステムの和光市が非常に先進的にやっています。というのが厚生で、文教はフューチャースクールのようなICTのようなところか、小中一貫校か、その辺のところを考えています。ほかに御意見がありましたら、私か事務局に言ってください。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

これで終わります。

大変御苦労さまでした。

午後0時25分 閉会